

編集後記：オンライン「天気」を担当しています。

おかげさまで、記事の検索結果を表示するページには毎月10万ヒット以上のアクセスをいただいています。12月は19万 8 千ヒット！ 気象学会 Web ページの全ヒット数86万の 2 割以上を稼いでいるようです。PHP で書かれたこのページは、検索するときと検索結果を表示するときの 2 回カウントされる、というマジックもありますが、それを差し引いてもかなりのヒット数です。オンライン担当としてうれしく感じるとともに、今後もより使いやすいシステムの維持更新に努めなければと身が引き締まる思いです。

と、この辺でやめておけばよかったのですが、86万ヒットあった、学会サーバーへアクセスしてきたサイトのランキングも確認してみました。クローラーやボットと呼ばれる自動巡回プログラムからのアクセス数がダントツで多いのですが、それらを除外してカウントした結果、アクセス元サイト第 1 位は、なんと我が気象庁でした。3 万 8 千ヒット。次点で気象研究所。こちらも 3 万ヒットを超えています。次に海洋研究開発機構。次いで…と行きたいところですが、元サイト別ヒット数の比率が「天気」編集委員の組織構成比と同じだったりすると寂しいので調査はここまで。

冊子版「天気」が発行されてから 1 か月遅れで記事が更新されるオンライン「天気」。オンラインながら速報性は望めません。しかし、過去60年余にわたって蓄積されてきた貴重な知見を保管し、それらに誰でも容易にアクセスできるデータベースとしての大きな役割が求められています。また、気象学に関する新たな発見や有益な情報を、今後も気軽に「天気」に届けてもらえるようなシステムもオンライン「天気」に期待されることだと勝手に思っているところです。

今期、オンライン「天気」では、より手軽に投稿していただけるよう、電子投稿システムの試験運用を始めました (<http://www.metsoc.jp/tenki/submission> 2015.01.22閲覧)。このシステムを使って、現在までに30編弱の投稿がありました。当初は、原稿不達やスパム攻撃など不安な面もありましたが、これまでの半年近くの試験運用期間中、大きな問題なく順調に運用できています。まだ試していない会員の皆様におかれましては、是非、上記ページからの投稿をお願いいたします。電子投稿ページのアクセス数が倍増することを楽しみにしています（なお、12月はたったの66ヒットでした）。

（青柳曉典）